

地域活動を支える住民の価値意識

東京都A市における参加型アクションリサーチを踏まえた
住民の主体性の探索

Key Words：地域活動、主体性、参加型アクションリサーチ

東京都立大学大学院 人文科学研究科
社会福祉学教室 博士後期課程 小山 宰 (009663)

東京都立大学 人文社会学部 准教授 室田 信一 (006647)

先行研究：「主体性」に関する議論

演繹的な議論

- 社会成員が社会関係を構築する際の二重構造における主体的側面（個人的側面）と客体的側面（制度的側面）→社会福祉の固有性：「主体的側面の困難に着目する援助」（岡村1983：91）
 - 生存主体認識「個人・家族・住民のそれぞれを、疎外に抗しつつ主体的にその本来的な生活を営むことのできる主体として認識する」（右田 2005：144）
 - 主体の転換「コミュニティワークの展開のなかで、少しずつ地域住民が力をつけていくことで、専門職の関わりを薄めていき、最終的には『住民主体』で地域福祉が推進できるようにする」（原田 2014:218）
- 個人・住民が、自らの課題や地域課題に積極的に自立して取り組む個人が連想される。

帰納的な議論

- 精神保健福祉分野においてボランティアとして携わる住民20名を対象としたインタビュー調査
「活動を続けてきた中で、特に精神障害者が抱えている問題や地域に潜む福祉課題などは考えたこともなく、ひたすら自分の目の前にある活動に専念している」（松本2013：58）
- 従来の演繹的な研究で示される住民像には収まらない、地域活動に専念する住民の姿（異なる「主体性」の存在）

研究疑問：『住民自身』が抱く「主体性」、活動参加・継続に際し抱いている価値意識とはどのようなものであるか？

本研究の目的および方法、倫理的配慮

研究目的

本研究では、主体性とはあらゆる住民の中にすでに存在するものであるとする立場を取り、地域活動が推進される現場において活動者である住民自身が大切にしている価値意識を明らかにすることを目的とする。

方法・調査概要

- 調査フィールド：東京都A市（郊外地域、人口：約20数万人）
- 調査方法：参加型アクションリサーチ
 - （1）地域活動に携わる住民およびA市社会福祉協議会職員を交えたグループワークの実施
グループワークに参加・協力をした住民
→A市社会福祉協議会職員から見て、地域活動に「主体的に」携わっていると思われる住民を10名程度紹介してもらい、その内、性別・年齢・活動の内容が多様になるよう4人を選出。
 - （2）東京都A市において地域活動を行う地域住民を対象とした質問紙調査の実施

倫理的配慮

首都大学東京（現、東京都立大学）研究安全倫理委員会による承認の後、研究・調査を実施した。質問紙調査の対象者については、質問紙に調査の趣旨およびプライバシー保護への対応を記載し、この調査が義務ではない旨、すべての質問に回答しなくても良い旨を説明した。調査への同意については、調査票の回答をもって、同意を得られたものとした。本研究では、対象者を特定できないよう匿名化を行った。

地域活動に携わる住民およびA市社会福祉協議会職員を交えたグループワーク

○協議内容

ボランティア活動に取り組むにあたって「こだわっていること（＝価値意識）」と「自分自身や他のメンバーに共通する傾向（＝パーソナリティ）」について付箋紙に書き出して、書き出された内容について意見交換を実施。全3回にわたるグループワークを経て、質問紙（スライド8参照）を作成した（2018年6月～7月）。

社会福祉協議会職員から見て、いわゆる主体的な住民のなかでも、複数の質問において、異なる回答・解釈が確認できた。

例）価値意識にかかわる質問

「地域活動では他の人に迷惑をかけないことが大事だ」という項目に対して

迷惑をかけるくらい他の人を頼るという態度を通して主体性が育まれるという意見



迷惑をかけない態度から自律的で主体的な態度が養われるという意見

→ 住民自身が位置づける「主体性」の多様性が確認できた。

質問紙調査の概要

- 調査対象：2018年9月時点において、東京都A市を活動の拠点として、民生委員の活動または地区協議会、老人クラブ、青少年健全育成委員会などの団体に所属し地域活動を行う地域住民
- 無記名自記式の質問紙調査。調査票と併せて返送用封筒を配布し、回答者からの郵送にて調査票を回収。一部のボランティア団体及びNPO については、オンラインでの回答ができるよう対応を講じた。（調査期間：2018年9月11日～10月28日）分析には、IBM SPSS Statics Ver. 25 を用いた。
- 調査内容

○対象者の属性

性別、年齢、出身地、A市の在住歴、同居人の有無・続柄、就労状況、学歴、収入、政治参加の状況

○地域活動の実践状況

活動内容、活動に関する経験、1週間あたりの活動時間、活動期間、代表する役職の経験

○グループワークで抽出された地域活動に関連する回答者の価値意識、パーソナリティ

→ 5件法「そう思わない（1点）」～「そう思う（5点）」

○地域活動に関連する経験

→ 3件法「いいえ（1点）」～「はい（3点）」

多様な主体性のあり方の理解を目的に、調査対象を暫定的にHigh-engagement (HE) 群とLow-engagement (LE) 群にグループ分けを行い、群間比較を実施。

2群の差の検定についてはウェルチのt検定を用いた（有意水準 $p < 0.05$ ）。

調査結果：調査対象者の属性

調査票配布とオンラインでの回答依頼をおこなった計1,613名のうち、900名からの回答を得た（回収率：55.8%）。

		度数	%
性別	男性	288	32.8%
	女性	590	67.2%
	合計	878	100.0%
年齢	30歳代以下	45	5.1%
	40歳代	79	8.9%
	50歳代	146	16.4%
	60歳代	231	26.0%
	70歳代	288	32.4%
	80歳代以上	100	11.2%
	合計	889	100.0%
出身地	A市出身	177	20.1%
	A市以外の東京都内出身	244	27.7%
	東京都以外の関東出身	131	14.9%
	関東以外の国内出身	308	35.0%
	日本国外出身	10	1.1%
	その他	10	1.1%
	合計	880	100.0%
同居人の有無	同居人あり	765	86.6%
	一人暮らし	118	13.4%
	合計	883	100.0%
同居人の続柄	夫もしくは妻（婚外関係も含む）	663	86.7%
	親（義理の親も含む）	83	10.8%
	きょうだい（義理のきょうだいも含む）	18	2.4%
	子（里子も含む）	416	54.4%
	孫（里子も含む）	39	5.1%
	その他	4	0.5%
政治的参加の状況 <small>（前回のA市市長選挙への参加有無）</small>	参加あり	743	83.6%
	参加なし	146	16.4%
	合計	889	100.0%

A市在住年数 <small>（n=870、単位：年）</small>		平均値	37.3
		標準偏差	18.0
		度数	%
A市在住歴	在住していない	11	1.2%
	10年未満	47	5.3%
	10年以上、20年未満	120	13.5%
	20年以上、30年未満	116	13.0%
	30年以上、40年未満	158	17.8%
	40年以上、50年未満	189	21.3%
	50年以上	240	27.0%
合計		881	99.1%

A市で地域活動に携わる住民の特徴

- 活動者のうち3分の2以上を女性が占めている（青色箇所）
- 活動者は60代以上の年齢層が多く（約7割）（黄色箇所）
- A市出身者は2割程度であるが、在住歴の平均年数が40年弱、在住40年以上の住民が約半数を占めた。A市の人口に占める移住者の割合がそもそも高いため、その傾向が反映されていると考えられる（緑色箇所）
- 一人暮らしの割合は少なく、同居人がいる場合、夫もしくは妻の割合が86.7%と高く、さらに子と同居が54.4%であり、夫婦のみ、もしくは核家族の割合が比較的高くなっている（ピンク色箇所）。

上記のような活動者の特徴は東京都の郊外における活動者にみられる典型的な傾向と推測される。

調査結果：地域活動の参加状況

		度数	%
現在携わっている地域活動 (n=885、複数回答、割合は各項目を選択した人の割合)	ボランティアグループ	387	43.7%
	地区協議会	287	32.4%
	町会・自治会	265	29.9%
	健全育成委員	217	24.5%
	老人クラブ	99	11.2%
	民生・児童員	95	10.7%
	NPO法人	64	7.2%
	PTA	48	5.4%
	こども会	24	2.7%
	生活協同組合	23	2.6%
	商工会	15	1.7%
	消防団	13	1.5%
	保護司	6	0.7%
	労働組合	5	0.6%
	青年会議所	4	0.5%
	その他	131	14.8%
	現在携わっている地域活動の数(複数回答)	1種	404
2種		277	31.3%
3種		129	14.6%
4種以上		75	8.5%
合計		885	100.0%
	平均値		1.9
	標準偏差		1.08
代表する役職の経験	代表する役職に就いたことはない	312	36.7%
	現在、代表する役職に就いている	334	39.3%
	過去に代表する役職に就いていた	204	24.0%
	合計	850	100.0%

		度数	%
1週間当たりの地域活動の活動時間数 (単位:時間)	3時間未満	306	37.1%
	3時間以上7時間未満	303	36.7%
	7時間以上	216	26.2%
	合計	825	100.0%
	平均値		9.98
	標準偏差		26.87
地域活動の活動継続期間 (単位:年)	6年未満	216	24.5%
	6年以上20年未満	367	41.7%
	20年以上	298	33.8%
	合計	881	100.0%
	平均値		4.14
	標準偏差		13.96

地域活動への参加状況から伺える主体性

- 半数以上の回答者が、2種以上の活動を行っており、多様な場面で活動をしている（青色箇所）
 - 6割以上の方が、団体等の中で代表する役職を経験しており、自らの為だけではなく、地域・活動団体への主体的、積極的な関わりをしている様子が伺える（黄色箇所）
 - 個々人の週当たりの活動時間のばらつきは大きいですが、25%以上の方は、週7時間以上を活動に費やしている（緑色箇所）
 - 3割以上の方が、20年以上もの期間に渡って地域活動を継続しており、活動参加への主体的な様子が伺える（ピンク色箇所）
- 上記の結果からは、A市の地域活動に参加する住民の少なからずの「主体性」の存在が伺え、それを活動の中に発揮している状況があると捉えることができる。

調査結果：住民の価値意識とパーソナリティ（単純集計）

住民の価値意識

(上段:度数、下段:行%)

	そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
地域で困った時に、助けてくれる人がいる。	538 62.1%	247 28.5%	55 6.3%	21 2.4%	6 0.7%	867 100.0%
地域活動では他の人に迷惑をかけないことが大事だ。	512 58.6%	215 24.6%	91 10.4%	45 5.1%	11 1.3%	874 100.0%
地域活動に参加することは新しい自分を見出すきっかけになる。	494 56.3%	263 30.0%	83 9.5%	32 3.6%	6 0.7%	878 100.0%
地域活動に参加する人には、新たな出会いや新たな経験を得て欲しい。	560 63.9%	241 27.5%	62 7.1%	11 1.3%	2 0.2%	876 100.0%
地域活動ではルールや取り決めを守ることが大事だ	518 59.0%	281 32.0%	54 6.2%	23 2.6%	2 0.2%	878 100.0%
地域活動であっても、責任を持って取り組むべきで、なるべく失敗したくない。	359 40.9%	341 38.9%	108 12.3%	51 5.8%	18 2.1%	877 100.0%
地域活動で困ったら、他の人に相談をするようにしている。	536 61.0%	236 26.8%	78 8.9%	21 2.4%	8 0.9%	879 100.0%
地域活動には他の人を引っ張る強いリーダーが必要だ。	340 39.0%	350 40.2%	119 13.7%	50 5.7%	12 1.4%	871 100.0%
地域活動では年功序列の考えや役職を大切にすべきだ。	39 4.5%	151 17.3%	239 27.3%	240 27.5%	205 23.5%	874 100.0%
地域の中には活動に参加して欲しくない人もいる。	70 8.1%	234 27.2%	234 27.2%	192 22.3%	130 15.1%	860 100.0%
自分が地域活動に取り組むのは、過去に自分が人から助けてもらった経験があるからだ。	131 15.3%	149 17.4%	295 34.4%	135 15.7%	148 17.2%	858 100.0%
地域活動は自分のためではなく、他者のために活動するものだ。	113 13.1%	179 20.7%	293 33.9%	153 17.7%	126 14.6%	864 100.0%
地域活動では、得意ではないことでもやってみようと思っている。	179 20.7%	349 40.3%	172 19.9%	134 15.5%	31 3.6%	865 100.0%
地域活動は楽しくなければいけない。	396 45.3%	310 35.5%	130 14.9%	29 3.3%	9 1.0%	874 100.0%
自分の時間を犠牲にしても地域活動に取り組む意義を感じる。	99 11.4%	249 28.6%	222 25.5%	201 23.1%	100 11.5%	871 100.0%
誰にでもできる地域活動にはあまり興味を抱かない。	8 0.9%	40 4.6%	207 24.0%	262 30.4%	344 40.0%	861 100.0%
地域活動において、苦手なことがあり、苦手な人がいる。	83 9.6%	255 29.5%	237 27.4%	179 20.7%	111 12.8%	865 100.0%
地域活動は、一歩ずつ着実に広がっていくことが大事だ。	472 54.3%	285 32.8%	93 10.7%	14 1.6%	5 0.6%	869 100.0%
地域活動は自分にとって有意義な時間になっている。	429 49.1%	327 37.4%	93 10.6%	22 2.5%	3 0.3%	874 100.0%
国の予算を削減するために、地域活動に取り組む必要がある。	78 9.2%	127 14.9%	284 33.4%	148 17.4%	213 25.1%	850 100.0%
地域活動には行政や社会福祉協議会などの支援が必要だ。	486 55.8%	283 32.5%	78 9.0%	16 1.8%	8 0.9%	871 100.0%

住民のパーソナリティ

(上段:度数、下段:行%)

	そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
自分は人好きな方だと思う。	315 36.0%	302 34.5%	191 21.8%	56 6.4%	12 1.4%	876 100.0%
自分は前向きな性格だと思う。	282 32.3%	340 39.0%	167 19.2%	62 7.1%	21 2.4%	872 100.0%
自分は行動力があると思う。	191 22.5%	334 39.4%	202 23.8%	97 11.4%	24 2.8%	848 100.0%
地元（A市や生まれ育った地域）のことが好きだ。	430 50.0%	278 32.3%	128 14.9%	18 2.1%	6 0.7%	860 100.0%
人とお酒やお茶を飲んだりすることが好きだ	380 43.7%	289 33.3%	145 16.7%	38 4.4%	17 2.0%	869 100.0%
ものを作ること（工作、料理、プログラミングなど）が好きだ。	339 38.7%	297 33.9%	156 17.8%	57 6.5%	27 3.1%	876 100.0%
目標を設定して、それに向かって取り組んでいる、もしくは、これまで取り組んできた。	246 28.6%	335 38.9%	207 24.0%	56 6.5%	17 2.0%	861 100.0%
ニュースなど社会情勢について関心をもっている。	421 48.2%	329 37.7%	96 11.0%	23 2.6%	4 0.5%	873 100.0%
社会の不正を見つけたら放っておけない。	111 13.0%	406 47.6%	267 31.3%	55 6.4%	14 1.6%	853 100.0%
人に命令するより、人から命令される方が自分に合っている	73 8.4%	191 22.0%	391 45.0%	122 14.1%	91 10.5%	868 100.0%
何もしてない時間が一番辛い。	123 14.2%	189 21.8%	244 28.2%	181 20.9%	129 14.9%	866 100.0%
お金を貯めるより、他の人のために使う方がいい。	57 6.6%	130 15.1%	419 48.6%	160 18.6%	96 11.1%	862 100.0%

地域住民を交えたグループワークを経て作成した価値意識、パーソナリティの質問項目についての、全体の回答を示す。
多くの項目において、同様の回答パターンであったが、価値意識について、●青色箇所において、パーソナリティについては、●黄色箇所において、多様な回答が示された。

調査結果：価値意識・パーソナリティの群間比較

(上段:度数、下段:n=792中の%)

「代表する役職の経験」（過去・現在含む）を有し、かつ「週あたりの活動時間」が3時間以上である住民をHigh-engagement (HE) 群（表中のみどり色部分）に分類し、その他の住民をLow-engagement (LE) 群として分類。

		1週間当たりの活動時間		合計
		3時間未満	3時間以上	
代表する 役職の経験有無 (過去・現在含む)	役職経験なし	129 16.3%	163 20.6%	292
	役職経験あり	163 20.6%	337 42.6%	500
合計		292	500	792

下記の項目において（赤字項目以外）、HE群は、LE群に比べて有意（ $p < 0.001$ ）に肯定的な意見を示した。

価値意識

- ・ 地域活動に参加することは新しい自分を見出すきっかけになる。
- ・ 地域活動に参加する人には、新たな出会いや新たな経験を得てほしい。
- ・ 地域活動は楽しくなければいけない。
- ・ 自分の時間を犠牲にしても地域活動に取り組む意義を感じる。
- ・ 地域活動は自分にとって有意義な時間になっている。

パーソナリティ

- ・ 自分は前向きな性格だと思う。
- ・ 自分は行動力があると思う。
- ・ 目標を設定して、それに向かって取り組んでいる。もしくは、これまで取り組んできた。
- ・ ニュースなど社会情勢について関心をもっている。
- ・ 人に命令するより、人から命令される方が自分に合っている。 ⇒ Low-engagement (LE) 群が有意に肯定的な意見を示した。

HE群は、先行研究において演繹的に論じられる「主体性」に示されるような自らの課題や地域課題に積極的に自立して取り組む個人像に重なるものと思われる。

考察・結論

- 地域活動に携わる住民およびA市社会福祉協議会職員を交えたグループワークの実施段階において、住民が抱く「主体性」を巡る多様な解釈が確認できた（スライド4参照）。また、東京都A市の住民の地域活動の参加状況からは、全体の傾向として、多くの活動者が演繹的に議論されるような「主体性」の傾向を示した反面、必ずしもそれに該当しない項目も確認された（スライド7・8参照）。
- HE群およびLE群の群間比較からは、LE群においては、「人に命令するより、人から命令される方が自分に合っている」といったパーソナリティの傾向から、先行研究において演繹的に論じられるような「主体性」があるとは、言い難い。しかし、LE群には主体性が存在しないかということ、むしろ異なる「主体性」として再解釈する必要があるのではないかと（スライド9参照）。
- 現に地域活動に参加する住民が持つ主体性のあり様は、さまざまであり、規範的に語られる「主体性」のあり方のほかにも、活動を実施・継続する中では、多様な主体性が活動の中に発揮されている様子が本研究を通して確認された。従来、演繹的に語られる主体性からは除外される、異なる形の主体性に注目することは、ソーシャルワークのグローバル定義が示す、多様性を尊重し、地域・民族固有の知を基盤とする実践に結びつくであろう。今回行ったような参加型アクションリサーチの手続きを通して、その地域における住民の主体性のあり方を把握し、それを支持していくことが重要となるだろう。

（引用文献）

原田正樹（2014）『地域福祉の基盤づくり—推進主体の形成—』中央法規.

松本すみ子（2013）「住民の福祉活動参加プロセスとその要因—精神保健福祉ボランティアに焦点化した質的分析—」『ルーテル学院研究紀要』No. 47, 45-66.

岡村重夫（1983）『社会福祉原論』全国社会福祉協議会.

右田紀久恵（2005）『自治型地域福祉の理論』ミネルヴァ書房.